

平成 29 年度第 2 回臨時理事会議事録

日時 平成 29 年 6 月 24 日 (土) 11:00~12:30

会場 都市センターホテル 5 階 コスモスホールⅡ

出席者:

理事長: 藤井 知行

副理事長: 木村 正、八重樫 伸生

理事: 青木 大輔、井坂 恵一、苛原 稔、牛嶋 公生、岡本 愛光、加藤 聖子、北脇 城、
吉川 史隆、工藤 美樹、齋藤 豪、竹田 省、原田 省、藤森 敬也、三上 幹男、峯岸 敬、
村上 節、山田 秀人、山本 樹生、吉川 裕之

監事: 岩下 光利、嘉村 敏治、小西 郁生

顧問: 吉村 泰典

特任理事: 海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、生水 真紀夫

理事会内委員会委員長: 竹下 俊行

専門委員会委員長: 高松 潔

第 70 回学術集会プログラム委員長: 伊藤 潔

幹事長: 阪埜 浩司

副幹事長: 梶山 広明

幹事: 上田 豊、川名 敬、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、佐藤 豊実、佐藤 美紀子、澤田 守男、
寺尾 泰久、寺本 瑞絵、西 洋孝、西ヶ谷 順子、西郡 秀和、長谷川 ゆり、松村 謙臣、
三好 博史、諸隈 誠一、山上 亘、吉野 修

議長: 光田 信明

副議長: 久具 浩司

弁護士: 平岩 敬一

名誉会員: 宇田川 康博、神保 利春、鈴木 薫

事務局: 青野 秀雄、清水 菊栄

11 時 00 分 理事、副理事長、常務理事、理事 22 名が出席 (齋藤滋理事、森重健一郎理事、増崎英明理事は欠席) し、定足数に達したため藤井知行理事長が開会を宣言した。藤井知行理事長が議長となり、議事録署名人として藤井知行理事長および岩下光利監事、嘉村敏治監事、小西郁生監事の計 4 名を選出し、これを承認した。

I. 業務担当常務理事報告

1) 総務 (青木大輔理事)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2) 「倫理的に注意すべき事項に関する見解」に違反した会員について [資料: 総務 1]

①A 会員について

昨年譴責処分を受けた際に義務づけられている始末書の提出がなかった A 会員への追加処分として、会員資格の停止 (本会の会員資格および専門医資格を 3 年間停止する) 処分としたい。

藤井知行理事長「本会としては、見解違反を行った上に始末書の提出がないことに加えて、以前に見解を遵守するという念書を提出して会員に復帰した経緯を鑑みて、追加処分として会員資格の

停止としたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

苛原稔理事「会員資格停止の3年間が経ったあとはどうなるのか、ということについては『3年後には資格停止は終了するが、その間の動向をみて再度検討する』ということによいか。」

藤井知行理事「それでよいと思う。」

青木大輔理事「この件は定時総会で報告を行い代議員の承認を得る、という手続きを取りたい。」

②B 会員について

B 会員から6月6日に本会の退会届が提出された。本会はずでに同会員に対して譴責処分をしており、今回の退会届の提出により追加処分はなしとしたい。

藤井知行理事「本会に退会届が提出されたことから、これを受理して譴責処分のままに止め退会いただくこととしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 自民党の「医師偏在と良質な地域医療を考える勉強会」が6月7日に開催された。本会から藤井知行理事、海野信也特任理事、松本陽子先生が出席して、産婦人科の現状について説明した。

[資料：総務2]

海野信也特任理事「この会は初期臨床研修が選択必修となった外科、産婦人科、小児科、精神神経科にヒアリングを行ったもので、必修に戻す方向で党内で動いていただけることになった。」

藤井知行理事「産婦人科は説明の努力が足りないという先生や出身大学の都道府県に止まって働いてもらうべきであるという先生もいて、現状を理解していない方は多いと感じた。」

(4) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①2017年7月10日刊行予定の下記取扱い規約における価格ならびに初刷部数が決定した。

「子宮頸癌取扱い規約 病理編」(第4版)

・本体価格 4,000円+税

・初刷部数 5,000部

「子宮体癌取扱い規約 病理編」(第4版)

・本体価格 4,000円+税

・初刷部数 5,000部

②「学術団体によるHPVワクチン接種推進に向けた見解の“Vaccine誌”掲載についてのお知らせ」を本会ホームページに掲載したい。[資料：総務3]

川名敬幹「予防接種推進専門協議会17団体の声明は、ワクチンに関わる学術団体の総意ということで昨年4月に出されているが、これを英文化したものがVaccine誌に掲載された。これを本会ホームページに掲載したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会 特になし

(二) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン 2012 頒布状況

6月15日現在、9,289冊。

②低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬ガイドライン 2015 頒布状況

6月15日現在、4,725冊。

③HRT ガイドライン 2017 年度版について [資料：総務 4]

高松潔委員長「ここでご了承いただければ11月の日本女性医学会学術集会までに発刊したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (hCG) 製剤の安定供給継続に関する要望書を、6月21日に厚生労働省医政局長、同保険局長および日本医師会長あてに、日本産婦人科医会、日本泌尿器学会、日本生殖医学会と連名で提出した。[資料：総務 4-1]

[II. 官庁関係]

(1) 厚生労働省 なし

(2) 福島県

福島県から、県民健康調査検討委員会委員の推薦依頼を受領した。妊産婦に関する専門的見地から助言をしてほしいとのことで、任期は2年である。現在、産婦人科領域からは宮城県立こども病院の室月淳先生が委員となっており、本会としては室月先生を推薦し再任を依頼したい。

[資料：総務 4-2]

藤森敬也理事「今回は委員の選考に、より透明性をもたせるために、福島県知事名で推薦依頼が本会あてに行われたものである。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[III. 関連団体]

(1) 日本医学会、日本医学会連合

①日本医学会を通して厚生労働省医政局総務課、医薬・生活衛生局総務課、同安全対策課より、「内服薬処方せんの記載方法標準化の普及状況に関する研究」結果の概要についての周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。[資料：総務 5]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②日本医学会を通して文部科学省研究振興局ライフサイエンス課、厚生労働省大臣官房厚生科学課、同省医政局研究開発振興課より、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンスの一部改訂についての周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。

[資料：総務 6]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本学術振興会

日本学術振興会から、リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業の平成 30 年度分参加者募集要項の案内があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。[資料：総務 7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本先天異常学会

日本先天異常学会から、神経管閉鎖障害に関する声明文が送られてきた。この声明について、本会会員への周知を求めている。[資料：総務 8]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本神経学会

日本神経学会から、同学会が監修する「筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン」作成にあたり、東京女子医大の秋澤叔香先生に作成に参加いただきたい、との依頼があった。

藤井知行理事長「秋澤先生はこの領域の研究を行っている先生で、東京女子医大の松井英雄先生からも本件にふさわしい方であるとのコメントをいただいている。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 日本癌治療学会

日本癌治療学会領域横断的癌取扱い規約検討委員会から、日本病理学会で統一版癌取扱い規約のたたき台案を作るにあたり、本会の子宮頸癌取扱い規約（第 4 版）および子宮体癌取扱い規約（第 4 版）ワードファイルの利用許可についてのお願いを受領した。[資料：総務 8]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本子宮内膜症啓発会議

日本子宮内膜症啓発会議から、学校における子供の体力向上課題対策プロジェクトについて、本会への協力のお願いを受領した。本会には医学的見地から意見を求めたいとして、日本医科大学 明楽重夫先生の参加を求めている。[資料：総務 9]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 勤務医労働実態調査 2017 事務局から、同委員会が行う勤務医労働実態のアンケート調査への協力依頼を受領した。この調査への協力レベルの回答を求められている。[資料：総務 10]

青木大輔理事「本会は職域団体ではないので、この調査にふさわしい対象とはいええない。」

藤井知行理事長「学術団体としては、これに協力しなくてもよいのではないか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

3) 学 術 (竹田省理事)

(1) 学術委員会

(イ) 他団体特別賞推薦依頼について

- ①「平成 29 年度神澤医学賞」「研究業績褒章(上原賞)」「平成 30 年度文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞」候補者について、現在、推薦依頼を行っている。[資料：学術 1]

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 70 回学術講演会プログラム委員会

- ①コングレの子会社のマイスワンが提供する My スケジュールについて、第 70 回学術講演会でも第 69 回と同様のサービスを受けられるようにするため、検討を進めたい。

[資料：プログラム委員会 1]

八重樫伸生第 70 回学術集会長「PCO が変わっても本会として同レベルのサービスが受けることができる仕組みを考えている。」

藤井知行理事「サービスと費用を勘案して総合的に判断する問題なので、八重樫先生に一任することによいと思う。」

(ロ) 第 71 回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第 72 回学術講演会プログラム委員会

4) 編 集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

編集会議	7 月 21 日
------	----------

(2) 英文機関誌 (JOCR) 投稿状況：2017 年投稿分 (5 月 31 日現在) [資料：編集 1]

2017 年 JOGR 投稿状況 2017 年 5 月 31 日現在

投稿数	637
Accept	32
Reject	329
Withdrawn/Unsubmitted	82
Under revision	22
Under review (審査中)	171
Expired	1

2016 年 JOGR 投稿状況 2017 年 5 月 31 日現在

投稿数	1,473
Accept	285
Reject	1,051

Withdrawn/Unsubmitted	105
Under revision	4
Under review (審査中)	16
Expired	12

(3) JOGR における不正論文について

加藤聖子理事「不正論文は最近、日本でも増えている。国内において不正論文に関して注意すべきポイントなどが知られていない面があり、すでに AOCOG で行っている教育セミナーを、国内の学術集会や連合地方部会などで開催することを考えている。」

藤井知行理事長「不正論文は世界中で問題になっており、いろいろな学会でセミナーを行っている。本会としても国内での対応を急ぐ必要がある。多くの論文を書いている教授クラスの方でもこの件についての意識が薄いケースがあり、深刻に捉える必要がある。ぜひ協力をお願いしたい。」

木村正副理事長「以前に日本医学会連合が、わが国の研究倫理について否定的な意見を提案したことを受けた見直し協議の場では、各学会が責任をもって教育すること、また関連の講習を受けた証明がないと論文は出させないなどの意見も出ている状況なので、本会としても取り組むべきと思う。」

青木大輔理事「現時点で調べようとする場合、どこをみればよいか。」

加藤聖子理事「クロスチェックというシステムを使う方法やホームページにリンクさせるなどのやり方はある。」

青木大輔理事「実務上でチェックする仕組みを作っていただきたいことと、日本語での手引きや解説をみなさんがみられるところに掲載してほしい。」

加藤聖子理事「和文誌に特集として載せることを考えたい。」

苛原稔理事「本件は大学関係者以外の方にも伝えて行く必要がある。また学術講演会では、不正論文に加えて、ヒトを対象とした臨床研究の倫理指針を守ること、およびその守り方についてのセッションを設けていただくようお願いしたい。」

(4) 2016 年 JOGR インパクトファクターについて

2016 年のインパクトファクターは 1.086 であった(2015 年 1.091)。

加藤聖子理事「あまり変化がないようにみえるが、2017 年は楽観できない状況にある。」

5) 渉外 (木村正副理事長)

[FIGO 関連]

(1) FIGO Working Group on Reproductive and Developmental Environmental Health (RDEH) からの協力依頼について [資料：渉外 1]

木村正副理事長「機会があれば、学術集会などに呼んであげてほしい。」

(2) FIGO World Congress 2018 (10月14～19日、於：ブラジル リオデジャネイロ)にて表彰のAward候補者募集について [資料：渉外2]

木村正副理事長「先生方からの推薦をお願いしたい。」

[AOFOG 関連]

(1) AOCOG 2017 (6月15～18日、於：香港)に合わせ AOFOG General Assembly が開催され、本会より岡本愛光理事、万代昌紀 AOFOG Committee Chair が投票権を行使した。[資料：渉外3]

岡本愛光理事「AOFOG Congress 2021 はインドネシアのバリで開催される。なお今後は『AOFOG Congress』という表記に統一される。また第70回学術集会での子宮頸がんについての AOFOG のセッションを設けてほしいとの依頼があった。Sumpaico 先生は今回、退任となるが、本会の学術集会での国際化の進展について非常に高い評価を受けた。」

(2) 本会より YGA に推薦した小林佑介先生(慶應義塾大学)が AOCOG 2017 での口演発表の審査の結果、AOCOG 2017 YGA No.1 に選ばれた。

[日韓台関連]

(1) 日韓台 Information-sharing platform on training programs for J-K-T Young Doctors' Overseas Training Program について [資料：渉外4]

木村正副理事長「Training Program の費用は各施設と参加者でもつことになる。理事の先生方の大学で韓国、台湾から Ph.D の学生を取りたいとの希望がある場合は、渉外が仲介するので、これを使っていたらと思う。」

[国際協力機構 (JICA) /草の根技術協力事業 (草の根パートナー型)「工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト」関連]

6月に木村正副理事長、阪埜浩司幹事長、藤田則子医師、松本安代医師、西野るり子医師、野上侑哉医師(慶應義塾大学)をプノンペンに派遣した。[資料：渉外5]

木村正副理事長「カンボジアの学術集会で初めて参加費を取ったことと子宮頸がんのスクリーニングを初めて行ったことは同国としては画期的であった。」

6) 社 保 (北脇城理事)

(1) 会議開催

7月21日に第1回社保委員会を開催の予定である。

北脇城理事「平成 30 年度改定に向けて項目を絞り、外保連、内保連関係のヒアリングを行う段階で、日本産婦人科医学会やサブスペシャリティ学会と協調して進めている。」

7) 専門医制度（吉川裕之理事）

(1) 会議開催

第 2 回中央専門医制度委員会、全国地方委員長会議を 6 月 25 日に開催する予定である。

(2) 日本専門医機構

①平成 28 年度の日本専門医機構認定産婦人科専門医として既に 625 名が認定されているが、日本専門医機構認定産婦人科専門医相当の 1 名が一次審査合格者名簿から抜け落ちるという事務的不手際があり、6 月 2 日付で 1 名の追加申請が承認された。

②6 月 2 日の日本専門医機構第 14 回理事会概要について [資料：専門医 1]

吉川裕之理事「専門医の取得は義務付けではないこと、カリキュラム制を設置すること、研修の中心は大学病院だけでなく地域の中核病院などであることや都道府県協議会の役割について、整備指針に明記することなどが報告されている。」

③6 月 12 日に厚生労働省の「第 3 回今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会」が開催され、藤井知行理事長と佐藤豊実主務幹事、西郡秀和幹事が出席した。[資料：専門医 2、3]

吉川裕之理事「本会は地域医療に十分に配慮していることを説明した。」

④平成 30 年度の専門研修プログラム審査について[資料：専門医 4]

吉川裕之理事「基幹施設を 147 施設として一次審査を終了した。もともと 122 施設であったが、追加希望の 3 施設に、各県複数の基幹施設にすることで 22 施設が追加された。まだ多少の微調整はあると思うが、それは中央専門医制度委員会にご一任いただきたい。」

藤井知行理事長「都道府県協議会では基幹施設となる施設がもうないのかを審査するとのことである。特に産婦人科は注目されているので留意してほしい。」

(3) 日本がん治療認定医機構からアンケート協力依頼があり、回答案を作成した。[資料：専門医 5]

藤井知行理事長「いつ募集を始めてよいかについてよく聞かれるが、採用は 10 月 1 日以降だが、リクルート活動はどんどん進めてほしい。」

8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成 29 年 5 月 31 日）

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：80 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：604 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：604 施設
- ④顕微授精に関する登録：563 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：70 施設
- ⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：11 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理 1]

6月12日現在申請 658 例〔承認 570 例、非承認 16 例、審査対象外 36 例、取り下げ 5 例、照会 19 例、保留 7 例、審査中 5 例〕（承認 570 例のうち 20 例は条件付）

※再審査中であった藤田保健衛生大学からのメープルシロップ尿症に関する申請について、第三者の専門家に重篤な遺伝性疾患としての確認をとることができたため、着床前診断の適用とする。

(3) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設認可状況—平成 29 年 5 月 30 日現在計 85 施設

平成 29 年 5 月 30 日付 豊橋市民病院、一般社団法人 至誠会第二病院

(4) 神経筋疾患ネットワークから、ゲノム解析による遺伝子検査の一般化・商業目的化阻止に関する声明を受領した。〔資料：倫理 2〕

(5) 一般社団法人日本衛生検査所協会から「民間事業者が提供する非発症保因者診断を目的とした臨床研究『夫婦遺伝子スクリーニング検査』についての懸念」について、日本小児科学会、日本人類遺伝学会など国内で遺伝治療・検査医学に携わる諸学会などと連名で公表したいとの依頼があった。

なお連名を了解した場合は、ホームページへの掲載も求めている。〔資料：倫理 3〕

苛原稔委員長「民間事業者が独断で夫婦遺伝子スクリーニング検査をやることについては懸念があるので、本会としては参加したい。」

工藤美樹理事「スクリーニングということだが、すべての遺伝子に対して検査を行うということか。」

苛原稔委員長「そういうことである。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

9) 教育（八重樫伸生副理事長）

(1) 会議開催

6月20日	用語集・用語解説集コアメンバー会議
-------	-------------------

(2) 書籍頒布状況 6月15日現在

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用)：ダウンロード

用語集単体	224
必修知識 2013+用語集	206
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	668

書籍版：6月15日現在

	入金済み(冊)
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	793
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	427
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	501
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	654
用語集・用語解説集改訂第3版	3,272
若手のための産婦人科プラクティス	3,267
専門医試験例題と解説 2014	1,221
専門医試験例題と解説 2015	1,106

専門医試験例題と解説 2016	175
専門医試験例題と解説 2017	157

(3) 「頸」と「頸」に関しての日本医学会への要望書について [資料：教育 1、1-1]

久具宏司委員長「子宮頸部などの『頸』については字画の多い『頸』を使っているが、日本医学会の医学用語辞典の編集方針には、字画数の少ない略字を使うとなっている。この方針はおかしいのではないか、ということで今回の要望書を作成した。」

藤井知行理事長「学会としての要望書とするためには、まず用語委員会で検討した上で、次回の理事会に出してほしい。」

用語委員会で検討した上で再提出することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (齋藤滋委員長欠席につき、梶山広明幹事)

(1) 会議開催

第1回広報委員会を、2017年7月21日(金) 13:00~14:30 に開催予定である。

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報 1]

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について[資料：広報 2]

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報 3]

2) Human+・Baby+プロジェクトチーム (青木大輔チームリーダー) 特になし

3) 震災対策・復興委員会 (増崎英明委員長欠席につき、西ヶ谷順子幹事)

(1) 福島への医師派遣については、2017年12月で終了予定である。

(2) 大規模災害対策サイトについて

①5月1日(月)にリリースした。本会ホームページよりアクセス可能であり、平時からの各施設の情報入力を推進していきたい。

②さらに今後は、厚労科研『災害時小児・周産期医療体制の構築と認知向上についての研究』班と共同して、システムの改良を進めていく予定である。

具体的には、1) 本会会員以外の災害対策担当者が、訓練時や災害時にシステムに入ることを可能にするための ID・パスワードの付与、2) 日本周産期新生児医学会の会員専用 HP からシステムに入ることを可能にするための改修、3) 災害時小児医療領域情報を共有するための掲示板機能の設置、に対応していくことになる。

海野信也特任理事「本件については前回の理事会で大枠についてご承認いただいたが、今回はその具体的な内容についてご承認いただきたい。」

藤井知行理事長「費用はどのくらいかかるのか。」

海野信也特任理事「これについては数十万円であるが、厚労研究班で負担する。さらに訓練モードを追加することも考えている。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③7月29日の内閣府訓練（南海トラフを想定した訓練）の際に当システムを使用することで協力する予定である。訓練当日および準備日のヘルプデスク対応を事務局で行う予定である。

(3) 日本産科婦人科学会「広域災害対策情報システム」における分娩施設情報の更新体制の構築について、地方連絡委員あてに依頼を行いたい。[資料：震災対策1]

(4) 福島産婦人科医療復興支援セミナーについて [資料：震災対策2]

藤井知行理事長「セミナー開催費用の半分を本会がもつというのは、少し負担が多すぎるように思う。」

藤森敬也理事「本会から参加する先生方の交通費はもってほしいということかと思う。」

藤井知行理事長「共催ではあるので負担するのはよいが、金額についてはもう少し検討したい。」

本会が一定の負担をすることについては特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) 診療ガイドライン運営委員会（峯岸敬学会側調整役）

(1) 産科編委員会（板倉敦夫委員長）

「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について（6月15日現在）

書籍版：5,801冊

書籍版+ID/PW付き：1,252冊

電子版ダウンロード：866件

(2) 産科編評価委員会（増崎英明委員長） 特になし

(3) 婦人科外来編委員会（小林浩委員長）

①会議開催

6月4日に伝達講習会を開催した。

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2017」頒布状況について（6月15日現在）

書籍版：3,588冊
書籍版+ID/PW付き：1,477冊
電子版ダウンロード：768件

(4) 婦人科外来編評価委員会（青木大輔委員長） 特になし

5) コンプライアンス委員会（工藤美樹委員長） 特になし

6) 医療改革委員会（海野信也委員長） 特になし

7) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会（岡本愛光委員長） 特になし

8) 産婦人科未来委員会（生水真紀夫委員長）

(1) 会議開催

6月23日	サマースクール打ち合わせ会
-------	---------------

(2) 第11回産婦人科サマースクール応募状況 [資料：産婦人科未来1]

生水真紀夫委員長「当初の応募が200名弱であったので追加募集を行った結果239名となった。地域の偏りの修正を行い230名を受け入れることで進めている。」

藤井知行理事長「今回、当初の応募者が少なかったのは、酒を出さないとの方針もあるかと思うが、募集時期がマッチングの時期と重なり6年性が参加しづらいということもあると思うので、来年は少し募集時期を早めるのがよいと思う。」

(3) 第8回産婦人科スプリング・フォーラム開催地について [資料：産婦人科未来2]

生水真紀夫委員長「京都、沖縄、淡路島を候補として検討したが、費用が安い淡路島としたい。日程は来年3月10、11日を第1候補として考えている。」

淡路島で来年3月10、11日に開催することについては特に異議はなく、全会一致で承認された。

9) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

(1) 会議開催

①6月22日に第1回女性活躍のための健康推進委員会を開催した。

大須賀穰委員長「来年の女性の健康週間の丸の内キャリア塾は3月7、8日の方向で話を進めている。」

10) 臨床研究管理・審査委員会（竹下俊行委員長） 特になし

11) 医療安全推進委員会（増崎英明委員長） 特になし

12) 公益事業推進委員会（八重樫伸生委員長）

寄附金募集については、平成 28 年 10 月に寄附金依頼を企業宛、11 月号機関誌に会員宛に寄附金依頼を同封し発送した。平成 29 年 6 月 13 日の時点で会員から 104 件 5,309,784 円、企業は「アイクレオ（株）」様から 300,000 円、「オオサキメディカル（株）」様から 300,000 円の寄附をいただいた。

13) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長） 特になし

14) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長） 特になし

Ⅲ. 平成 29 年度定時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料：総会 1]

Ⅳ. その他

(1) 日本医学会連合の役員選挙について

藤井知行理事長「日本医学会連合の役員選挙があり、小西郁生先生が理事に再任された。また会長は高久史麿先生から門田守人先生に代わることになった。」

(2) 専門医認定審査で提出する症例レポートについて

村上節理事「5 月に個人情報保護法が改正されたが、専門医認定審査で提出する症例レポートは今のままで問題ないか。」

西郡秀和幹事「専門家に確認したが、ID や施設名が分からないようにしている現状のままで進めるしかないとのことである。」

村上節理事「症例をレポートとして提出することについて、専攻医が患者に同意を取ったことをカルテなどを書いておけばよいということか。」

藤井知行理事長「これは産婦人科だけの問題ではないので、日本医学会および日本専門医機構で考えてもらうべきテーマかと思う。」

以上